

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号 機構 02 - 002
電話番号 03-5974-2021
代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	森が崎保育園			
事業所連絡先	〒	143-0013		
	所在地	東京都大田区大森南2丁目2番15号		
	TEL	03-3742-7071		
事業所代表者氏名	岡本 裕加里			
契約日	2024 年 4 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 6 月 20 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 9 月 11 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 6 月 20 日			
自己評価結果報告日	2024 年 9 月 11 日			
訪問調査日	2024 年 9 月 19 日			
評価合議日	2024 年 9 月 19 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・事前説明にあたっては、令和6年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 27 日

事業者代表者氏名 岡本 裕加里 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) こどもの人権を尊重し、国籍や文化の違いを認め合い、すこやかに成長するよう保育します。 2) こどもが心身ともに健康で安心して生活できる環境の中で保育します。 3) 人との関わりの中で豊かな人間性を持ったこどもを育成することに努めます。 4) 家庭との連携を図り、保護者とともに子育てに努めます。また地域社会の子育て支援を行います。 5) 一人一人のこどもの気持ちに共感し、友達と遊ぶことが楽しく、いろいろなことに挑戦できるこどもに育てます。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・職員には保育を必要とする乳児及び幼児のために最善の利益を考慮した保育を行い、こどもの人権を尊重し、家庭と力を合わせて健やかな育ちを支援することを求める。またこどもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進すべく保育園が核となり、地域の子育て支援のために、乳幼児などの保育に関する相談や援助の実施をする等の社会的役割を果たしていく。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・こども一人一人の人格形成の基盤及び発達過程に携わっているという自覚と使命感を持ち、さらに様々な状況を謙虚に受け止め、真摯に取り組める人であり、保育園職員であり、公務員であってほしい。

調査対象

2024年6月20日現在の施設の利用者(保護者) 96世帯(利用者総数 109名)を対象とした。

調査方法

WEBアンケート。施設にて担任が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

109
96
96
62
64.6

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(97%、60人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか
(100%、62人)

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか

問13. あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか

問15. お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすいと思いますか
(各々 98%、61人)

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	61	1	0	0
保育園で覚えていたら歌や言葉を家でよく話すようになりました。 先生達と一緒に保育させて頂いて、子供達の伝えたいことや、意見を聞き出すのが先生達はとても上手だなと思いとても参考になりました。「凄いね」「そうなんだね」だけでなく、日々、ちょっとした事で会話に織り交ぜていこうと思いました ありがとうございますなどの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	62	0	0	0
家でも園での活動を楽しそうに再現したりしている 子供達の育ててきた野菜の収穫する日だったみたいで、ゴーヤの表面がゴツゴツしていたり、ピーマンの種を見たり、色々なことに興味津々だったのを見て、〇〇は野菜とかも興味あるんだなあと思いました！ 今の歳は色々なことに興味津々なんだと改めて実感させてもらいました。 などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	58	4	0	0
アレルギーがある時は親身に対応していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。 自分でご飯をちゃんと食べていたり好き嫌いなく食べていて、びっくりしました！ 私も食べたいって思うくらい美味しそうな給食でした！ 毎日栄養満点のおいしい給食を作って頂きありがとうございます。 などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	56	5	0	1
虫や、花や、地域の人たちに触れていて素晴らしいと思ってます。 特に季節の歌は家で歌ったりする事がないので、楽しく歌ったり、歌から色々学んだりする事が出来ている。 普段砂遊びは減多にしないのすごいきれそうでした！ 私が普段してあげられていない遊びを保育園でできていて感謝しかありません。 などの意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	55	7	0	0
いつもお世話になっています。先生達が私に対して気遣いを感じる言葉を言って頂きいつも励まされてます。ありがとうございます。 快く快諾して下さい、本当有り難く思っております。 当日突然の延長保育をお願いするときも、一度も嫌な顔をされたことなく、柔軟に受け入れてくださり感謝しています。 などの意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	54	8	0	0
心配になったことはありません。 十分な人数の保育士さんを配置していただき、よく見てもらっていると思います。 先生達がちゃんと危ないことなど注意してくれているなと思います。ありがとうございます。 などの意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	46	9	7	0
年間予定が提示されるので助かります。 早めに教えて頂けるので、日程調整がしやすく、助かっています。 個人面談の日程など、複数の候補日を聞いて調整して下さり、とても助かっています。 などの意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	57	4	1	0
いつも園の様子を事細かく連絡帳に記載いただき、かつ、口頭でもお伝えいただけるので、安心しております。 家庭で不安に思うことを相談する機会を作ってください、また親身になってアドバイスを頂けるので助かっています。 子の学年以外の先生たちも、全員が子どものことを把握してくれていて、遅番保育などで担任の先生が不在のときも、他の先生がきちんと申し送りしてくれる安心感があります。 などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	57	4	1	0
きれいです。 綺麗な園だと思います。 などの意見があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	55	6	1	0
特記すべき意見なし。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	57	4	1	0
少しのケガでも、どうやってなったのか教えて頂けるので有り難いです。 些細な怪我も対応し、報告してくれます。 熱性痙攣を起こした際に、凄くしっかり対応していただき助かりました。 などの意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	57	5	0	0
現状トラブルは無いと思いますが、きっと大丈夫だと思います。 といった意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	61	1	0	0
子供の状態に合わせて適切に対応して下さります。 といった意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	58	3	1	0
特記すべき意見なし。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	61	1	0	0
連絡帳に分かりやすく書いてくださいます。 といった意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	59	2	1	0
今のところ大きな不安はございません。 といった意見があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	45	11	6	0
まだその機会がありません。 困ったことはありません。 などの意見があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
	評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリー1の講評		
	園の「職員のしおり」は目指す姿や重要な資料を纏め配付して読み合わせで共有している 園では「職員のしおり」を作成し職員全員に配付して職員会議の時に持ち寄っている。年度の初回職員会議では「職員のしおり」で保育理念、保育方針、保育目標、他重要な項目は読み合わせして理解を深めている。事務室及び玄関には園目標が掲示され、いつでも見ることが出来る。保護者に向けては入園オリエンテーションの時にパワーポイントで視覚的に分かりやすく重要事項で園の考え方を説明し、保護者へ配付、玄関の掲示、そしてファイルで閲覧も可能としており各クラスの掲示板には園目標を掲示し保護者の理解が深まるような取り組みを行っている。 園長は園の課題解決に向け各プロジェクトチームの活動を通じて園運営をリードしている 園作成の「職員のしおり」で園が目指している事や、全員が責任を担える係の役割等全てを職員会議内で読み合わせで確認をしている。園長は園の課題の抽出や解決に向けてプロジェクトチーム(PT)体制を作り、園だよりで園庭環境PTやヒヤリハットPT、及び防災PTの活動を保護者にも紹介している。さらに園内研修PTは、園長・副園長が直接役割を担い、園の課題解決に向けた園内研修を企画して実践する事や、職員に園内研修の希望テーマを募集し今後に活かしている。園長はPTを全員参加の活動として目標達成に向けて園運営をリードしている。 園の案件は主にリーダー会で検討し意思決定が行われ決定内容は職員会議で周知している 重要な案件の決定手順は、区に関わる案件は園長、副園長で方向性を決めリーダー会から職員に周知していくが、園内及びクラス内で発生する案件は園長に報告の上、リーダー会で意思決定を行い、職員会議の中で全体周知をしている。職員会議に参加出来なかった職員、及び支援員は議事録をはじめ共有資料専用書庫の中で記録を確認している。なお、情報共有の仕組みは毎日の朝礼、記録の確認、情報共有ファイルで確認、クラスでは昼礼を実施し共有漏れがないようにしている。保護者に向けては保護者会で周知する事や、紙面での配付、掲示板で知らせている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6 / 6 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 <table border="1"> <tr> <td> ● あり ○ なし </td> <td>1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している</td> <td> ○ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ● あり ○ なし </td> <td>2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している</td> <td> ○ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ● あり ○ なし </td> <td>3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している</td> <td> ○ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ● あり ○ なし </td> <td>4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している</td> <td> ○ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ● あり ○ なし </td> <td>5. 事業所の経営状況を把握・検討している</td> <td> ○ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ● あり ○ なし </td> <td>6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している</td> <td> ○ 非該当 </td> </tr> </table> サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5 / 5 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 <table border="1"> <tr> <td> ● あり ○ なし </td> <td>1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している</td> <td> ○ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ● あり ○ なし </td> <td>2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している</td> <td> ○ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ● あり ○ なし </td> <td>3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている</td> <td> ○ 非該当 </td> </tr> </table> 評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 <table border="1"> <tr> <td> ● あり ○ なし </td> <td>1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している</td> <td> ○ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ● あり ○ なし </td> <td>2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる</td> <td> ○ 非該当 </td> </tr> </table>			● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当	● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当	● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当	● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当	● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当	● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当	● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当	● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当	● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当	● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当																																	
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当																																	
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当																																	
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当																																	
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当																																	
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当																																	
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当																																	
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当																																	
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当																																	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当																																	
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当																																	
2 保護者の意見や要望は行事後のアンケートや送迎時の会話で把握し、すぐに対応している 保護者の意向は、保護者会や行事後には必ずアンケートを実施し、今までのアンケートの意見を反映して、集まった感想や意見はクラスだよりの中で報告している。また、送迎時の会話や、1・2歳児の保護者からは連絡帳で意見や要望をもらう事があり、内容によってはリーダー会で話し合い、職員にも周知してすぐに対応を行っている。今回、第三者評価の利用者調査でも保護者の貴重な意見を把握できている事もあり、今後は年間を通して園の保育サービスや、取り組みに関する総合的なアンケートの実施を検討して、区の園長会で話し合われる事に期待したい。 園長は就任後すぐにコミュニケーション面談を実施して職員全員の意向を把握している 職員の意見や提案は、一般職員面談シートの仕組みで、年に2回面談時に話し合う機会があり確認している。また、園長は就任後の4月度には職員全員とコミュニケーション面談を実施、事前に5項目について記入を依頼して職員の強みを把握する事や、意向や意見も確認している。この面談は次年度以降も継続を予定している。園長や副園長は、普段から職員の意見や提案を大切にしており、いつでも相談時には手を止めて聞く事や、各クラスを回る時にも意見や提案を把握している。また、園内研修に職員の意見や企画も取り入れている。 地域のニーズは地域保育施設会議に参加し参加園との情報交換で把握し園で共有している 区の地域連携推進事業として行っている、年2回実施の地域保育施設会議に参加して貴重な情報交換を行っている。地域の私立園8園、小規模園、認可外、区立民営、区立園など、15園23名が参加し、グループ討議で意見交換を行っている。昨年11月は「安心できる保育園運営を考える」として適切な保育や安全計画について、今年5月には「職員育成について」共通のテーマでグループ討議を実施しており、色々な保育所との情報交換から地域のニーズを把握している。																																			

カテゴリー3		
3	経営における社会的責任	
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○ 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
園の「職員のしおり」の読み合わせやこどもの人権研修を通じて職員の意識を高めている 年度初回の職員会議で職員全員に配付している「職員のしおり」から理念、方針、園目標、保育園職員としての心得、人権擁護について、そして保護者に関わる内容の読み合わせを行っている。職員会議に参加しない非常勤職員や支援員には別途説明を行っており、全国保育士会倫理綱領は職員休憩場所に掲示している。昨年後半には園内研修として「人権に配慮した保育について考え自分たちの日々の保育を振り返る」をテーマとして、5グループに分かれて事例を基にワークシートを用いて話し合う研修を2回行い、職員全員の意識を高めて保育に取り入れている。 虐待に対する組織的な防止対応を実践し園長不在時の対応も練習を重ねる予定にしている 虐待に対する組織的な防止対応として、年度初回の職員会議で「職員のしおり」の特に人権擁護について、こどもの権利条約の4つの柱や保育士として注意することを読み合わせしている。事務室の個人情報の鍵付き書庫の外側には、虐待通知のフローチャートが確認できるようにしている。クラス担任の気づきは、園長へ報告し記録に残すことや、職員会議で情報共有し、関係機関へは情報共有の段階で連絡を入れるようにしている。なお、今後は園長不在時にも緊急の対応として、職員全員が対応をイメージできるようにトレーニングを進めていく予定をしている。 園は近隣園に向けた公開保育や園見学会、職場体験他を積極的に行い透明性を高めている 園は外部講師による「運動遊び」の公開保育、近隣園の職員も見学するイベント、職員交流も実施している。また近隣園以外の保育園からも普段の保育を見学したい希望があり快く迎え入れて公開している。保育園見学会も積極的に実施し、定例では計6回の実施案内を園入り口掲示板、2児童館、区のホームページで募集し多くの来園者があり昨年は33組の園見学を受け入れている。さらに実習生の受入れに加え中学生の職場体験を受入れ今年は現在2名を受け入れている。園は透明性を高めて地域社会に開かれた組織となっている。		

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5／5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
	評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
	●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当	
サブカテゴリー2(4-2)			
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4／4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当	
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当	
カテゴリー4の講評			
園のリスク対応は安全計画に基づき実施し、保護者にも伝え、こどもの安全に努めている 園の周辺環境からリスクは、門の前が交通量の多い道路の為、門外への飛び出しや自転車との接触等の危険性が高く、常に保護者への注意喚起を行い掲示もしている。地震や災害、火事への対策は安全計画を策定し各種避難訓練の実施、保護者向け掲示板には防災マップや総合防災訓練の様子を掲示して保護者にも伝えている。安全計画は保護者会で説明しており、今後は玄関掲示も考えられたい。事務室の入り口の壁面に防災関連コーナーとして自衛消防隊体制図、図上訓練、防災マップの掲示や火災通報器、110番緊急連絡ボタン等があり、意識を高めている。 事業継続計画で事業の復旧を見据えた行動が出来るよう疑問点を出し合う事を考えている 園の事業継続計画(BCP)は詳細化し職員には説明して周知しているが、事業の復旧を見据えた行動はイメージが持ちにくく、園長は常にBCPを読み合い疑問点を出し話し合う必要があると考えている。職員との相互理解では、特に「重要業務の継続」が重要であり内容の相互理解と修正や加筆をして理解を高める事に期待したい。またBCPは保護者には伝えており、今後は児童館や園医、町会長にも計画の概要を伝え地域としての防災意識が高まる事を期待したい。なお園は福祉避難所の対象園であり今月末に開設の訓練を行う予定をしている。 園の紙の個人情報の管理や電子媒体の管理は全てルール化して徹底し適切に行われている 個人情報の取り扱いはプライバシーポリシーで確認している。園の情報管理として、紙の個人情報の管理やカメラ用携帯や媒体は全て鍵付き書庫の中で一元管理し、持ち出しが必要な場合は必ず使用管理簿に記入することをルール化している。PCやUSBなどは家から持ち込まない、保育中のスマホは使用しないなどの情報の取り扱いに関するルール全般を明確にしている。PCは事務室のみで使用しているがパスワード設定やアクセス権限も定めて厳重に管理しており、秋からPCは増設の予定をしている。			

カテゴリー5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12／12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		3／3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
園長の人材育成の想いは人材育成計画の作成に繋がり職員面談時に説明を実施されたい 園長の人材育成に向けた想いや考え方は、今年園長が作成した人材育成計画のねらいに込められ、「保育は人なり、まず人が適切な保育を行っていく」として人間観、こども観、そして人間性や責任の自覚等の資質を上げて、こどもを信じる事ができるように育成していくと考えている。一般職員面談シートには業務計画と研修計画(自己啓発)に加え、キャリアデザイン(めざす将来像)の項目もあり活用されている。今後の職員面談シート面談時には、区の人材育成指針内の職員育成計画(キャリアパス)と園長作成の人材育成計画を合わせた説明を実施されたい。 園内の良い雰囲気づくりや職員の連携に向けて職員全員が話し合う機会を多く作っている 園内研修はグループワーク方式を取り入れて職員全員が話しやすい雰囲気を作る事や職員会議の場でも進行をベテラン職員に委ね若い職員も発言できるような配慮もしている。また園内公開保育は行っていないが、いつでも各クラスの保健指導や運動遊び、保護者会にはクラスに関係なく職員が誰でもお互いの保育を見合えるようにしている。園長は毎日職員に必ず一声かけることや園長の机の横には丸椅子を置き相談時にはすぐ横に座って話せること等、職員調査からも話しやすい、相談しやすい、助け合える等職場の雰囲気や職員の連携に対する多くの評価がある。 職員の気づきや工夫はいつでも提案できる環境があり保育の質向上に取り入れている 外部研修の受講後には、内容を要約した研修報告書を使用して職員会議で紙面を配付し報告して還元する仕組みが機能している。研修内容の説明は自分の考えを纏め、再度研修内容を整理する事で本人も理解を深めている。また職員一人ひとりの気づきや提案は園長や副園長に伝える事が出来る雰囲気を作っている。提案の中には「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を職員が独自に分かりやすく作成したものが好評で全職員に配布した事や、環境構成図と指導計画を合わせた方が分かりやすいとの提案等、保育の質向上に向けた提案をすぐに実践している。		

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
社会情勢から求められる「こどもの人権に配慮した保育」を行うために、日々の保育から具体的な場面を出し合い、その時のこどもの気持ち、保育士の思い、その場面の背景、適切な声かけや関わりを確認し実践する必要がある、目標を「こどもの人権を守る適切な保育・関わり」と定めて次の取り組みを始めた。 ①園内研修において職員全員で事例に基づくグループ討議を2回開催した 第1回目は、食事、排せつ、午睡、こどもへの関わり、こどもへの言葉かけをテーマに、ワークシートを使用して、グループ討議を行い発表して共有した 第2回目は、最初の園内研修の振り返りから具体的な保育を確認、5グループでそれぞれ保育場面を想定してテーマを考え、ワークシートを使用して討議、発表して共有した ②研修後各グループのワークシートを印刷し全職員に配付して保育に取り入れた 取り組みの結果、職員が互いの保育を意識して見合い、こどもに適切な声かけや関わりを行うようになった。自分自身の振り返りにもなったと思う。 令和6年度の保育園目標として『「こどもの最善の利益の尊重」を理解し、こどもを主体とした保育を実践する』を掲げ、引き続き「こどもの人権に配慮した保育」を行っていく。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
不適切な保育が問題となっている今、「こどもの人権に配慮した保育」を実践していくために、目標を「こどもの人権を守る適切な保育・関わり」と定めて取り組みを始めている。 実際の取り組みとして、園内研修で子どもの人権について、日々の保育から具体的な場面を出し合い、その時のこどもの気持ち、保育士の思い、その場面の背景を日々の事例を出してテーマとし、ワークシートを使用してグループワークを行い発表し共有している。研修は2回行い、2回目は最初の振り返りから実際の保育場面を確認している。このグループワークのシートは印刷して職員全員に配付して保育に取り入れている。 この取り組みの結果、職員全員が人権に配慮した保育について考え、自分たちで保育を振り返る事ができ、互いの保育を意識して見合い、こどもに適切な声かけや、関わりを行うようになったことは大きな成果と言える。 今後も継続して「こどもの人権に配慮した保育」を行っていき、今年度の保育園目標にも『「こどもの最善の利益の尊重」を理解し、こどもを主体とした保育を実践する』と掲げ、職員の意識を高める事でPDCAを回している。	

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) これからの保育園に求められる事は「多様な保育サービスの充実と合わせて在宅子育て支援」と考え、拠点園として森が崎保育園子育て支援計画を策定し、年度のテーマを「子育て支援の充実」と定めて次の取り組みを始めた。 ①保育園見学会、見学会実施後に参加者が共に遊ぶ時間を作る ②育児応援事業、給食試食の他に栄養相談や育児相談に応じる ③園庭開放、いつでも来園可能で、おすすめ曜日を設定 ④子育て情報誌の発行・配布、年4回発行、配布先は2児童館、園医、図書館、特別出張所、スーパーの6か所の他、見学会などでの来園時にも配布 ⑤児童館訪問、計測サポートや遊びの紹介 ⑥保育園来園イベント、身体計測、「さくらルームであそぼう」「もりワンたいむ」「おとうさんとあそぼう」他 実施の結果、園内に活動報告を行う事で職員の子育て支援への意識が高まった。実績として、保育園見学会来園総数33組、育児応援事業総利用者数7組、園庭開放総利用者数24組、他も予定通り実施することができた。 森が崎保育園の地域子育て支援が園内にも地域にも浸透し始めており、今後も園全体での受け入れ体制を構築することで、地域に必要な場とされるような子育て支援を継続していく。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 現在の子育ては地域の繋がりの希薄化により地域や、家庭も子育ての力が低下していることから、これからの保育園に求められるものは、多様な保育サービスの充実と合わせて在宅子育て支援と考えており、目標を子育て支援の充実と定めて園に来てもらえる企画を中心に取り組みを始めている。 具体的には、園の地域支援プロジェクトチームを中心に企画して、保育園見学会や育児応援事業、園庭開放や子育て情報誌の発行・配布、児童館訪問、そして保育園来園イベントとして毎月の身体計測、多目的室での遊び時間「さくらルームであそぼう」、遊戯室で遊ぶ「もりワンたいむ」「水遊び」、在園父子と、地域父子を対象とした「おとうさんとあそぼう」などを開催している。 年間を通じて多くの地域の未就園児家庭の来園に繋がり、地域支援プロジェクトチームが実績集計結果と活動の振り返りを園内で職員全員に行ったことにより、職員の子育て支援への意識が高まったことはとても大きな成果と言える。 森が崎保育園の地域子育て支援が園内にも地域にも浸透し始めており、今後も園全体での受け入れ体制を構築することで、地域に必要な場とされるような子育て支援を継続していくとしてPDCAを回している。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4／4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価		標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○ 非該当
◎あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		○ 非該当
◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○ 非該当
◎あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
区のホームページやチラシ・掲示板等で情報提供を行っている 区のホームページには、当園の保育目標や、開園時間・保育時間・延長保育・園の生活・家庭との連絡方法・遊びの紹介等が、掲示されている。園のホームページの中で、施設概要や園周辺の様子・保育の特色などを写真を交えてわかりやすく紹介している。また園舎前の掲示板には、質の良い睡眠についてを掲載している「健やか子育てだより」や簡単クッキングの紹介をしている「すくすくパワー」・園庭遊びのお誘い「子育て支援イベント」・園見学会の日時や内容等のポスターを掲示し、広く利用希望者に情報提供を行っている。 各関係機関と連携し、子育て支援や地域向け活動の情報を提供している 行政には、園の紹介や見学会の日程・空き状況を知らせるとともに、社会的ニュースや園運営に必要な情報を得ている。当園の子育て支援情報は、2児童館や図書館・嘱託医の医院・特別出張所・近隣のスーパー等に依頼し、ポスターの掲示やチラシの設置を行っている。地域連携担当者が児童館を訪問し、園で実施しているイベント(「おとうさんとあそぼう」では広い屋上で在園児や地域に呼びかけて親子でボールやコンビカーに乗る遊び等)や「マイ保育園登録」・「育児応援券」の紹介を積極的に行い、地域子育て支援に力を入れ取り組んでいる。 利用希望者の問い合わせ対応や園見学を実施している 園見学会は、こどもの園での様子が伝わるように9時50分から1時間程度、園舎内の環境構成や掲示物・保育の特色等を説明しながら、こどもと保育者の関わる様子や雰囲気を感じてもらっている。その後、1階の「さくらルーム」で親子の触れ合い遊びや手遊び等の紹介を行っている。見学者からの質問には園長より丁寧に説明を行っている。また、「見学者用しおり」や「ひだまり通信」「おやこであそぼう」「子育てマップ」等の提供を行い、入園の一助になるよう努めている。日程の合わない方に対しては、個別に相談を受け対応を図っている。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし		1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし		1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
サービス開始の前には、オリエンテーションを行い重要事項説明を行っている 4月入園内定の通知は、2月中旬頃区より届き、その後、保護者より電話が入り、入園に必要な書類を取りに来ていただく流れとなっている。その際、面談の日程を2週間ほど設けているので、日時を相談の上決めている。面談終了後の3月第一土曜日に、プレゼン用ソフトを使用し、重要事項説明(保育園の役割や保護者の責任・園の概要・目的及び運営方針・利用開始及び終了に関する事項等)を実施している。園長・副園長・保育者が参加して開催し、その場で出された質問に対しては、丁寧に説明を行っている。 こどもの保育に必要な情報は、新入園児面接で把握し記録している 新入園児面接では、保育上必要な情報を保護者から聞き取りを行っている。栄養士による食物アレルギーについては、既往歴を含め、口にしたことのある食材や、形態・きざみ方・コップの使用について等詳細を聞き、新入園児面接報告書の備考欄に記録し、職員と情報を共有している。個人情報の取り扱いについては、重要事項説明の中で行い個人情報の定義や収集・管理・目的外利用・外部提供等の説明をしており、保護者より「個人情報の利用目的について」や「区立保育園間個人情報の受け渡しの承諾」の同意を得ている。 入園後は、こどもの不安解消に努め、保護者と話し合いながら慣れ保育を行っている 入園後は、保護者の復職時期や、こどもの園での様子に配慮し、保護者の事情に合わせ相談の上で慣れ保育を行っている。「慣れ保育表」に個々の誕生日や慣れ保育の状況・備考欄には健康や生活習慣・アレルギー・その他についてを記録し、こどもが滑らかに園生活に慣れるように職員間の共有を図っている。当園は1歳児園で、4月は1歳児21名を預かるため、保護者から離れ新しい生活に移行する際の不安は大きい。そのため、担任以外の支援員や看護師・フリー職員・園長・副園長を含み園全体で応援体制を組みながら、こどもの不安解消に努めている。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13／13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	☐ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	☐ 非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当
	サブカテゴリー3の講評	
保育上必要な情報は、定められた書式に記録し把握している 園でのこどもの姿や家庭の様子は、連絡帳(1歳児と2歳児)を使用し、家庭と連携し把握を行っている。幼児クラスは、「今日のこどもの様子」を日々1階廊下に掲示し、こどもが工夫して製作しながら、組み合わせの中での発見や自信をもって友達と取り組む姿等が表現されていて、保護者にわかりやすく伝えている。こどもの状況はすべて児童票の中で網羅されている。また健康カードには、身長体重計測や健康診断・歯科検診の記録を記載し、毎月保護者にサインを頂き園と共有し、個人面談の実施後は個人面談記録に記入し保護者のニーズを把握している。 全体的な計画を基に、年間・月間指導計画を作成し定期的に見直している 区立共通の「保育に関する全体的計画」には、事業の目的や保育理念・方針・目標・こどもの保育目標・保育環境・保育の社会的責任等が記載されているので、職員間で理解を深めている(園の独自性として地域の実態に対応した保育事業と行事の参加を記入している)全体的計画を基に、年間・月間指導計画が作成され週案や個別の計画に反映している。年間指導計画は、養護と教育に分かれた計画の他に、各クラスが年間目標や、こどもの特徴・共通理解項目を作成している。他クラスの指導計画は、年度初めの職員会議で共有し期ごとに振り返りを実施している。 こどもや保護者に変化があった場合には、職員間で共有を行いこどもの理解に努めている こどもや保護者の変化について、送迎時に口頭で受けたり、連絡帳を通して把握した内容を日々の朝礼(8時半から10分間ほど)の中で情報共有を行っている。昼礼では職員間の「報連相」を行い、こどもの理解をより深めている。また、こども一人ひとりを正しく理解するために、「こどもの人権について」の園内研修を行い、継続して職員で話し合い子どもの気持ちを探り、保育者の関わり方についての学びに繋げている。個人面談の中でも、保護者と子育ての悩みや考え・こどもを取り巻く環境を聞き、共に考え支援を行いつつ、こどもの理解に努めている。		

	サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5／5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当
	サブカテゴリー5の講評		
	こどもの人権やプライバシー・羞恥心に配慮した保育を行っている こどもの人権に配慮し、最善の利益が得られるような保育実践を目指している。看護師による健康教育の中で、5歳児には5月頃プライベートゾーンの話を行い、「からだの話」をわかりやすく伝えている。また、毎月行われている身体計測や、夏場の水遊びやどろんこ遊び・プール遊び後の着替えも男女別にして(部屋と廊下の空間に分ける)いる。1・2歳児のおむつ交換は、トイレ内にマットを敷き人の目に触れないよう配慮して取り替え、室内で取り替える場合にはパーテーションを使用し、こどものプライバシーや羞恥心に配慮した保育実践を行っている。 日常保育の中で、こども一人ひとりを尊重した保育実践を積み重ねている 年度初めの職員会議の中で、安全保育マニュアル(保育に関する基本・安全確認のための取り組み・事故防止の実践・長時間にわたる保育について等)について読み合わせを行い、安全で安心できる保育環境にするために取り組んでいる。遊びの中では、折に触れ色々な場面で、こどもの意見を聞きながら保育を行っている(遊びを継続できる環境を整えたり、行事に向けての活動内容・給食のおかわり等)。こども達がグループで意見を出し合い考えた発想をどのような方法で実現できるのかと、こどもの気持ちに寄り添った援助を日々行っている。 虐待防止や不適切保育の研修を受講し、職員間で意識を深めている 虐待防止や不適切保育の研修に参加した職員は、職員会議の中で報告し全員で共有を図っている。また人権擁護のセルフチェックを行い、不適切な保育者の関わり方を意識していき、園内研修の中でこどもの場面を想定してグループ討議を行っている。こどもの気持ちを探り適切な保育者の関わり方について、意見を出し合い検討している。最後にグループの発表を行い全員で共有を行っている。研修後のワークシートは、印刷して全職員に配布し保育実践に活用している。今年度の保育園目標として、一人ひとりの人権を守りこども主体の保育実践を目指している。		

		サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5／5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし		1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし		1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評			
区のマニュアルや園独自の手引きを整備し活用している 区の各種マニュアル(安全保育マニュアル・小規模プール安全と衛生管理・誤飲窒息事故防止・保育指導計画及び日誌の書き方・福祉避難所開設・応急保育所開設マニュアル等)を活用して保育を行っている。各種マニュアルは、個人に配布しており必要に応じて個人で確認を行うことができる。その他の虐待マニュアルや保健業務の手引き等は、事務所の書庫に保管している。また、安全保育マニュアルは年度初めに、小規模プール安全は水遊び活動前の職員会議の中で読み合わせを行い、注意喚起を図り安全で安心な保育園を目指している。 各種マニュアルを活用し、必要に応じ見直しながらサービスの提供を行っている 園独自の「職員のしおり」を作成し、保育業務に直結しているものなので、全職員に配布し読み合わせを行っている。転勤者や新規職員に対しては、個別で説明を行い対応している。区のマニュアルの見直し・差し替えがあった場合や、園内の担当プロジェクトで見直しを行った際には、朝礼や職員会議の中で伝達し職員間での共有を図っている。毎月、施設の安全チェックや設備の安全及び衛生点検を行い、より安全な保育園環境になるよう努めている。 サービスの向上を目指し、行事毎のアンケートや感想を聞き園運営に反映している サービスの向上を目指し玄関には、「ご意見箱」を設置し、また行事の感想や意見は電子媒体で集め、保護者のニーズ等をタイムリーに把握する仕組みがある。また運動会や3月実施の就学祝い会後には、保護者にアンケートを依頼している。集約後には保護者に配布し、共有したうえで、次年度の行事に反映している。年2回予定している保護者会後には、「年間目標や大切にしていきたい事」や内容について、その他気づきの項目で、感想を頂き担任間で振り返りを行い、より良い保護者会を目指して取り組んでいる。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4																					
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	36／36																				
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(○○○○○○○)																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当	◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当	◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当	◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当	◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当	◎あり ○なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当	
評価	標準項目																						
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当																					
◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当																					
◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当																					
◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当																					
◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当																					
◎あり ○なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当																					
評価項目1の講評																							
一人ひとりのこどもの全体的な姿を把握して、主体的に遊べるよう工夫を凝らしている こどもが遊びの中で発想を巡らせ遊びこめる環境を整えるために、一昨年は1歳児室と2歳児室の環境構成について講師を招き指導を受けている。こどもの動線に配慮し、個が中心の年齢から小集団で繋がってくる年齢なので、1つ1つのコーナーもこどもの興味に合わせこどもの視点に添った構成を考えている。棚の設置方法や準備する玩具・こどもが出し入れしやすい工夫等を行っている。月間指導計画作成時には、室内の環境図を考え職員間で工夫を凝らしながら主体的に遊べる環境に努めていくと同時に、保育者も環境の一部と捉えて成長の援助を行っている。 特別な配慮が必要なこどもについては、集団生活の中で共に育ちあえるよう援助している 今年度は1名の医療ケア児を受け入れた保育を行っている。保護者と密に連絡を取りながら、献立表の確認や家庭連絡医療的ケア実践記録に記録しながら、心地よく過ごせる保育を行っている。看護師と担当保育者が日々観察をする中で、こどもの気づきや興味のある遊びを探っていき、他のこどもと関わり育ちあえるような援助に努めている。困り感を抱えているこどもについては、職員間で気づきの共有を図り困っている事に寄り添っていく保育実践を行っている。保護者の理解を得ながら臨床発達心理士に相談していき、助言を保育の中に活用している。 発達の中で生じるトラブルについては、双方の気持ちに寄り添い保育を展開している 成長発達の中で生じるトラブルについては、1歳児・2歳児のこどもは言葉で気持ちを表現することができず、行動(たたく・噛みつく・押す等)で表すので、保育者はこどもの気持ちをくみ、取りお互いの気持ちを代弁していき、コミュニケーションを取りながら気持ちが安定する援助を行っている。幼児クラスでは、トラブルになった理由や双方の気持ちを聞き、お互いの気持ちを受容していきながら解決に向けて話し合う時間を設けている。気持ちの葛藤がある中で、人と自分の気持ちの折り合いをつける力が養えるような援助を行い、保育を展開している。																							

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている 評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当
	評価項目2の講評		
	登降園の際には、保護者との会話や連絡帳を通してこどもの姿や変化を把握している 登降園の際には、家庭でのこどもの様子を聞きながら表情や行動を観察して受け入れを行い、気になる点については、その場で声をかけるようにしている。1歳児・2歳児は、こどもの生活を24時間で捉え、連絡帳の中で、生活習慣や様子を把握し、変化があった場合は、クラス連絡表に記入し担任間で共有を図っている。幼児クラスでは、体温カード(鼻水・咳・薬・その他)に毎日記録してもらい、健康状態を把握している。日中のこどもの変化については、緊急連絡先に電話を入れ保護者に丁寧に伝え、受診の場合には保護者と相談しながら対応している。 基本的生活習慣の自立に向け、保護者と連携しながら無理なく進めている 生活習慣の自立に向けては、年齢や発達を踏まえ保護者会の中でプレゼン用ソフトや資料を通して保護者に知らせている。食事に関しては、無理強いせず、こどもの気持ちに添った援助を行っている。食事は、友達と楽しく食べることを大事にしているので、無理な介助は避けてこどもの気持ちを汲みとった関わりを行っている。排せつも同じで保護者とこどもの姿を共有していき、便器に慣れることから進めている。生活習慣については、「ほけんだより」や「えいようだより」の中でも紹介してるが、看護師や栄養士からも保護者に助言をすることもあ 降園時には、1日の様子を口頭やクラス連絡表で確認しながら伝えている 降園時には、「今日の子どもの様子」を1階廊下に掲示したり、2階廊下にはこども達が製作した作品を掲示しているので、日中の遊ぶ姿が視覚を通して想像できるような環境構成を行っている。朝夕の当番者には、担任より申し送りを行いクラス連絡表に連絡事項を記入しているので、伝達漏れがないように伝えている。保護者との信頼関係を築くために、挨拶だけでなくこどもの遊ぶ姿や友達との関わりの様子・エピソードを交えながら、丁寧な保護者対応に努めている。		
3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	☐ 非該当
	評価項目3の講評		
	こどもが主体的に遊びを展開できるように、環境構成の工夫を行っている 日常の保育の中で、こども一人ひとりが主体的に遊べるように各クラス保育室の環境構成に力を入れている。こども目線でコーナー設定を行い、玩具が年齢や発達にあったものか・玩具を通して友達との関わりが持てるか・何を加えれば遊びが発展するのか等、こどもの行動を観察していき創意工夫を行っている。今年度の保育目標を「こどもを主体とした保育実践をする」と掲げ、職員間での情報共有や研修を活用していき、こどもの最善の利益が保障され一人ひとりを尊重した保育を目指して、より遊び込める保育の実践を積み重ねている。 こども一人ひとりが、言葉による自己表現ができる保育を展開している 1歳児や2歳児は、自分の気持ちを言葉で表現することが難しいので、保育者は表情や行動・身振りを捉え場面と言葉が一致するような言葉かけを行い、こどもの気持ちに寄り添った保育を行っている。幼児クラスでは、異年齢保育(もりもりタイム)の年間指導計画を作成し計画を基に異年齢で遊ぶことにより、心の育ちや遊びの伝えあい・言葉の刺激等を受けている。保育者は、こどもの行動から言葉を先取りせずに、待つ保育を念頭に保育を行い、発達や年齢にあった絵本や紙芝居を取り入れ、言葉を楽しく習得できる保育を展開している。 戸外遊びを通して身近な自然に触れ季節を感じる保育を行っている 春には年長児が、「18色の花」を植えて玄関先でお世話をしている。こどもの生活に潤いを持たせるために、近隣の公園で虫探しや草木に触れる活動を積極的に取り入れている。4歳児はカブトムシの飼育を行い、大事に育てその活動から子どもの活動に繋がる遊びを行っている(カブトムシから手紙が届きミッションをする)。また散歩も商店街を通り緑道に行く経路で小さい春を見つけたり、街の人に挨拶をしてお店屋さんで働く人を発見する目的等で行っている。八百屋で玉ねぎや春野菜を見たり魚屋で袋越しに触る等、貴重な体験を行っている。		

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th colspan="2">標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ☒ あり ☐ なし </td> <td>1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している</td> <td> ☐ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒ あり ☐ なし </td> <td>2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している</td> <td> ☐ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒ あり ☐ なし </td> <td>3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</td> <td> ☐ 非該当 </td> </tr> </tbody> </table>				評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている
	評価	標準項目													
	☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当												
	☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当												
☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当													
評価項目4の講評															
こどもの興味や関心を捉え、こども自らが進んで行事に取り組んでいる 幼児クラスが中心となり、様々なごっこ遊びを経験している(遠足ごっこ・まち探検・お店屋さん等)。お店屋さんごっこも日々の散歩からお店の人との会話の中でイメージを膨らませ、お店の絵を模造紙に描いている。こどもの話し合いの中から、20軒以上のアイデアが出され考えを出し合う中で「スーパーだったらいろんなお店がある」事に気づく(店舗はのりもの・こじかマーケット・ハンバーガー・かわいいお店・お守りやさん等)。廊下壁一面に模造紙の大きなお店を貼り出し、こどもの発想をどう工夫すれば実現できるかと考えながら保育を行っている。 皆で協力して色々な行事を行い、達成感や喜びを感じる保育を行っている 運動会は、近隣の小学校の校庭で行われ(雨の場合は体育館)幼児クラスが参加し入れ替え制で実施している。保護者には、他クラスの演技や競技を見ることで成長の見通しが持てるため、事前連絡を行い「フリー観覧席」を設け応援するスペースを確保している。春より取り組んでいる運動遊び(見て聞いて考えて体を動かす)では、スキップ・歩く・走る・カンガルージャンプ・かえるジャンプ等を取り入れ楽しんでいる。運動遊びの動きも運動会の中に取り入れていき、話し合いや意見を出し合う時間を大切にして、皆で協力して取り組み喜びを感じている。 保護者の理解や協力が得られるよう、事前に丁寧な案内を行っている 年間行事予定(行事や保護者会の日程記載)を4月に配布して保護者に知らせると同時に、園だよりやクラスだより・写真入りの保護者向け掲示物等でも詳細を載せお知らせしている。当日を迎えるまでのこどもの活動内容や、取り組んでいる姿を掲載しわかりやすく伝えている。また、行事後の様子も知らせ園でこどもが活き活きと遊ぶ姿の共有を図っている。運動会や就学祝い会の行事の後には、保護者アンケートを取り、保護者の意見や考えをくみ取り、園運営に反映させながら、理解や協力が得られるように取り組んでいる。															
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th colspan="2">標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ☒ あり ☐ なし </td> <td>1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている</td> <td> ☐ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒ あり ☐ なし </td> <td>2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</td> <td> ☐ 非該当 </td> </tr> </tbody> </table>				評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当		
	評価	標準項目													
	☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当												
	☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当												
評価項目5の講評															
長時間保育のこどもが、安心して過ごせるように配慮を行っている 長時間保育を利用しているこども達は、午後のおやつ後に気分転換を兼ねて多目的室や広い廊下・テラス等で遊んでいる。同じ部屋に長時間いることで、思わぬトラブルにつながるケースもあるため、同じクラスでもレイアウトを工夫して2部屋に分けて保育を行っている。年齢発達に合わせた玩具を整え、静かな遊びを中心にこどもの気持ちにより添って保育をしている。延長保育では、延長保育日誌を記録し(クラス・名前・保育時間・連絡事項・こどもの姿等記載する)前日のこどもの様子や好んで遊んだ姿・同じ遊びの継続等がわかるようにしている。 合同保育に移行する時間帯も、楽しく過ごせるように工夫している 1歳児や2歳児は18時まで、幼児クラスは17時45分までクラス保育をし、4歳児・5歳児は17時45分に3歳児と合同して過ごしている。18時15分から19時15分までが延長の保育時間となっている。延長時間は、学校110番が設置されている2歳児室で保育を行っている。こどもの負担感を減らすために、延長保育担当保育士を配置してこどもの安定を図っている。こどもの日中の様子は当番保育士が直接口頭で伝えられるようにしている。この時間帯も楽しく過ごせるように、専用の玩具を設置し定期的に入れ替えをしている。															

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目6の講評		
	喫食状況の把握や味付けに工夫を凝らし、美味しく食べられるように配慮している こどもがおいしく食べられるよう、食事中に調理師や栄養士がクラスの巡回を行い、食べ具合の把握を行っている。給食の味付けは、全体的に天然だしがよく効いている優しい味付けになっており、味付けに工夫を凝らし健康的な食事になっている。食べ終わったこどもは、自分の食べたいものをおかわりしている。食事のマナーやルールを守りグループごとに友達と楽しんで食事をしている。1歳児と2歳児クラスは、担当の保育者が傍で介助を行い、こどもの個性を理解し慣れ親しんでいる保育者と安心して食べている。2グループに分かれ静かに食事をしている。 アレルギー食の提供については、細心の注意を払い誤食防止に努めている アレルギー食の提供については、区のアレルギー対応ガイドラインに則り、献立及び確認簿を使用している。カラートレーを使い、名札とおかわりはトレーの上に載せて提供している。朝礼の中で、前日のこどもの喫食状況の確認を行い、食べが悪い献立は味付けに工夫をして提供している。出来上がった給食は、調理師と保育者がダブルで確認を行った後、クラス担任同士で内容の共有を図っている。保護者とは、月1回面談を行い、誤食防止に努め確認を行っている。 野菜の栽培やライブクッキング等を通して、食に関心を持つ取り組みを行っている こども達は、ベランダやテラスでオクラやピーマン・ナス・キュウリ・ゴーヤ・トウモロコシ等の栽培を行い、日々水やりを通して野菜の成長を喜び楽しみに育てている。収穫した野菜は、調理室に届け調理した野菜を味わい関心を持てる活動になっている。また、散歩で八百屋見学をし、身近な生活の中で見て触れる機会があるので、親しみも増している。栄養士がテーブルにガスコンロを準備して、調理している様子をライブクッキングでこどもに見せる等、食に関心が持てる取り組みを実践している。		
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当
		評価項目7の講評	
		保育園保健計画に則り、こどもが安全や健康に関心が持てるよう援助をしている 年間の保育園保健計画を作成し(期ごとの保健目標・保健活動・保健指導・クラス別配慮等)計画に沿ってこどもの健康管理に努めている。保健指導は年間12回と歯科衛生士に依頼し「歯の話」をこどもに指導してもらっている。内容は5歳児対象にプライベートゾーンの話を行い、体について知る機会となっている。プールの話やがまんの話・トイレの話・食べたものはどうなるの話・けがが対応・目の話・風邪予防等、テーマごとに対象年齢を定めわかりやすく伝えるために工夫をしていき、こどもが体について知り健康や安全に関心が持てる取り組みをしている。 嘱託医による健康診断の実施や、関係機関と連携を図り保健管理に努めている 嘱託医による健康診断や歯科検診は、年間2回実施している。また、身体計測は月1回全園児に行っている。健診の受診後は、結果について保護者に知らせ場合によっては、受診後の経過を確認している。また、歯科検診後の質問に対しては、口頭や書面で返事を行い、不安の払拭に努めている。医療的ケア児に対しては、病院受診の際に同行したり保護者の意向を聞き、月ごとに計画を作成している。園での様子は、医療的ケア実施記録や、医療的ケア報告書に記録を行い、保護者と共有を図り健康管理に力を入れている。 SIDSの予防や感染症の情報は、タイムリーに保護者に知らせ注意喚起をしている SIDS(乳幼児突然死症候群)については、1歳児・2歳児クラスは10分間隔・幼児クラスは15分間隔で、室内の換気・温度・体位・咳・嘔吐等の項目でチェックを行い睡眠記録表に記入をしている。午睡中のこどもの健康には細心の注意を払っている。また、手足口症やアデノウイルス・インフルエンザ等の季節や時期による感染症について、情報を入手したり発症した場合には、電子媒体で配信と同時に掲示を行い保護者にタイムリーな情報提供を行い、注意喚起を呼びかけている。	

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
	●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当
	評価項目8の講評 保護者の就労状況や、個々の事情に応じた支援に努めている 保護者の方には、様々な家族構成や働き方・介護・通院等の家庭の状況があり、状況の変化も含めて柔軟な対応が求められている事を念頭にいれ、支援を行っている。急な残業や交通機関の乱れ等突発的に起きた事情に対しては、保育時間を延長して対応を行っている。延長スポットは、17時までに連絡があれば補食の提供を行っている。また個別相談についても、18時15分までは受けるようにしている。個人面談に関しても家庭の事情に沿った日時の調整も行い、それぞれ事情を考慮して保護者支援に努めている。 保護者会では保護者同士の懇談の時間を設け子育ての支援を行っている 保護者会は、年間2回の計画を立て保育の年間計画や保育の進め方・大事に考えていること・こどもの育ち等について、パワーポイントで説明を行っている。また、保護者同士が子育ての悩みが話せるくらい仲良くなれるよう、親しみを感じてもらえるように懇談の時間を設けている。懇談の内容は、クラス毎にこどもの発達の中で見られる2歳児の「いやいや期の関わり方」や「じぶんで」と主張する時の親としてどう対応しているのか等をテーマに気負わずに話せ、子育ての参考にできる懇談の時間を設けている。 園からの各種お便りを通して、園の理解やこどもの理解に繋がるように取り組んでいる 園だよりやすすくすくパワー・健やか子育てだより・クラスだより・各種保健衛生や健康に関する講座のお知らせ等、園で行っている地域子育て支援の情報においても、掲示板を通してお知らせし、園の理解やこどもの理解に努めている。また「おとうさんとあそぼう」では、保護者と地域の方に呼びかけを行い、遊戯室でボール遊びや乗り物遊びを提供している。遊戯室の様子は、壁新聞を作成し掲示したり担任が保護者と話す機会を設ける等の工夫を行っている。1階の廊下には、毎日「今日のこどもの様子」を掲示し一日の様子を理解していただくよう努めている。		
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当
	評価項目9の講評 地域資源を活用してこどもの興味や関心を広げる体験を行っている 避難訓練では、消防署の方に依頼して消防訓練を行ったり、交通安全について警察官による指導(横断歩道のわたり方について指導後にこどもが体験する)を受ける経験を行っている。非日常的な地域の方との関わりをもつ中で、安全について知る機会となっている。こども達は集中して話に聞き入っている。また年長児は、児童館で開催される観劇を見たり、図書館でお話会に参加する・小学校訪問等を体験することで、こどもの興味や関心が広がっている。 地域の人や他園との交流を実施して、こどもの生活の幅を広げている 散歩の中で、魚屋や八百屋さんと話しながら色々なことを知り、深く興味を持つ体験を行っている。年長児は、地域の保育園の5歳児との交流を計画(4園交流)し、2園ずつの交流はお互いの保育園を訪問して5歳児室と一緒に遊んだり、園庭で「けむり体験」を共に行う等、仲良くする姿が見られている。小学生になった時に、知っているこどもに出会うことで、親近感もわき安心感が得られることも目的の一つとして、生活の幅を広げこども同士の世界が広がる経験を重ねている。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	地域の子育て支援企画の実施や園の機能を発揮して児童館、近隣保育園とも連携している	
内容①	園の機能や専門性を発揮して、地域支援プロジェクトチームを中心に地域の子育て支援として、子育て情報誌の発行や年6回の保育園見学、育児応援券、来園イベントでは身体計測や「さくらルームであそぼう」「もりワンたいむ(ふれあい遊び)」「おとうさんとあそぼう」「みずあそび」等を企画して開催し園庭開放も実施している。自治会や民生委員へ訪問挨拶も実施して地域との交流を深めている。また地域連携では近隣園4園(自園含む)との公開保育による保育者交流や児童館訪問で子育て、栄養相談等園の機能を発揮した地域貢献の取り組みをしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル②	園内研修は園長と副園長が園の課題解決に向けたテーマでグループワークを実施している	
内容②	園内研修は、園長、副園長が園の課題を踏まえて解決に向けた研修を企画しグループワーク方式で実施している。さらに副園長を中心に若手職員と共に考え、職員全員から「園内研修のテーマ募集」を行い15件のテーマが集まっている。実施時にはメンバー候補者を決めて自身の勉強も兼ねて主体的に行う事を協議している。今年6月の園内研修ではグループワークとして「今から始めようわくわく保育」をテーマとして、こどもにとってどのような保育がしたいか、グループで話し合いの内容をそれぞれが事務室の壁面に貼り、常に見る事で意識を継続している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	子どもの気持ちや考えを尊重して大切に受け止め、豊かに遊べる環境を整えている	
内容③	こどもの考えや意見を朝の会や夕の会の中でも出し合い遊びや活動について考える時間を設けている。グループ名には、ユニークなオリンピックの種目の名前がついている。基本的には、保育者は子どもの言葉を先取りせず言葉を引き出すよう待つ保育に努めている。室内には教材棚が設置しているので自由に使い製作を楽しみ製作物は、廊下に飾り送迎時の保護者との会話に繋がっている。またラキューやレゴブロック・粘土・カプラ等の構成遊びは、継続して遊べる空間を整え子どもの意思を尊重し、こどもの生活や遊びが豊かに展開できるように取り組んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	こどもの遊びが主体的に展開し、友達関係が広がるよう環境構成に力を入れている
	内容	今年度の保育目標を「子ども主体とした保育を実践する」と掲げて、園全体で主体的に遊べる保育環境を考え取り組んでいる。年齢や発達・こどもの興味にあわせた玩具を準備していき、成長や興味に添って玩具の入れ替えを行っている。こどもの遊び方を観察して、遊びが広がるにはどんな玩具があればよいか、1つ1つのコーナーの充実を目指して環境を整え、3歳児までは保育者が仲立ちとなり遊びを通して友達との会話や共に遊ぶ姿・動作等、人との関わりが芽生え一緒に遊ぶ楽しさが味わえるような援助を行っている。
2	タイトル	野菜を育て、お世話をしていく中で食への関心を持ち、収穫を楽しみにしていき、クッキング保育でより関心を深めている
	内容	こども達は、テラスや園庭で野菜を育てている。オクラやピーマン・ナス・キュウリ・トウモロコシ等の野菜のお世話をしながら、葉の出る様子や実がなり大きく育つ様子を喜び大事に育てている。収穫した野菜は、その日に調理してもらい、野菜が苦手なこどもも1口味わう姿が見られている。また、年齢別食育計画を基に、栄養士がクッキングの材料を1人分ずつに分けて配り、自分で作ったものを味わったり、ライブクッキングでは、テーブルにまな板やコンロを置き、手元が見えるように、こどもが見やすい工夫を行い関心を深める活動を行っている。
3	タイトル	長時間保育のこどもが、安全で安心して過ごせるように環境を整え、工夫を凝らしながら保育を行っている
	内容	夕方は怪我が多い時間帯になってくるため、静かに遊べるように工夫したり、おやつ後に1歳児は好きな遊びのグループに分かれ多目的室や広い廊下・テラスを利用して少人数で過ごすことで、気分転換できトラブルの回避にも繋がっている。集団が大きいことで、精神的に疲れたり賑やかになりゆったりと遊べなくなり疲れも増すため、心の安定を図るためにもグループに分かれて遊んでいる。延長保育は2歳児室で行い(事務室隣で緊急の場合の動線が短く学校110番も設置)合同になる時間帯の配慮や専用の玩具を使用し楽しさが継続できる保育を行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中期計画及び事業計画は明確に策定しており、今後は半期の見直し時に事業計画にプロジェクト活動も加え職員全員で共有する事に期待したい
	内容	園の中期計画は園長、副園長が昨年までの3年間中期計画の振り返りを行い、残課題を整理して今年度から3年の中期計画(目標)を分かりやすく策定し、さらに、単年度事業計画に繋げて今年度の目標と重点の活動を明確にして策定し、いずれも職員に回覧している。今後は半期の見直しのタイミングで、事業計画に園の課題解決に向けたプロジェクトチーム活動の期待役割や計画を加えることと、回覧ではなく職員会議の場で職員全員に中期計画、事業計画の内容を園長の想いで伝え共有することに期待したい。また、職員のしおりへファイルも進められたい。
2	タイトル	事故の未然防止に繋がるヒヤリハット管理は、職員全員が日常のヒヤリの気づきを発信して共有できる簡便な仕組みの工夫に期待したい
	内容	ヒヤリハットプロジェクトチームは、こども達が安全に過ごせる園内の環境を見直しながら職員の安全意識を高める活動をしている。ヒヤリハットマップを作成し、園内や散歩先の公園などの安全点検を職員全員が現場確認をして遊び方や留意点を纏めている。事故の未然防止に向けた日常のヒヤリハット管理は、把握件数が少ないと思われ、本来はヒヤリとした気づきを直ぐに記録化する事が望ましい。簡便な方式(例えば付箋紙を使う)で都度出せるような運用や、発生都度園の見取り図に丸シールを貼る等、気づきを共有できる仕組みの工夫に期待したい。
3	タイトル	保護者に向けいつでも意見や苦情、相談できる体制があり、今後は第三者委員に園を知ってもらう事や挨拶等、交流できる方法を検討されたい
	内容	玄関正面の掲示板には、苦情や意見の相談窓口、第三者委員2名の連絡先、大田区オンブズマン制度のポスターを掲示し、いつでも申し入れできる体制を明確にしている。今まで苦情の発生はなく、意見箱も用意しているが入ることもなく、意見や要望、相談は直接口頭で伝えられており、速やかに対応をしている。園の第三者委員は区がお願いしていることから、園長・副園長と面識は持っていない。現在もコロナ禍の影響から行事に来賓を招くことは行っていないが、第三者委員2名の方に園を知ってもらうことや顔合わせの挨拶等交流できる方法を検討されたい。